

問1 日本の都市景観において、電柱を撤去して電線を地下に埋設する「無電柱化」が推進されています。この施策がもたらす「防災」面での最大のメリットとして、最も適切なものはどれか。(2022年 鳥取公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 地震などの災害時に電柱が倒壊し、避難路や緊急車両の通行路が塞がれるのを防ぐ効果 | 2. 電線を地下に集約することで、落雷による地域全体の停電を完全に防止する効果 | 3. 地中の送電設備から発生する熱を効率よく放出し、都市のヒートアイランド現象を抑制する効果 | 4. 台風などの強風によって電線が切れた際、周囲の住宅への延焼を食い止める防火壁としての効果 |
|--|---|--|--|

問2 自然堤防のように、低湿地の中で周囲よりわずかに標高が高い場所に集落が立地する現象について、その特徴を正しく説明しているものはどれですか。(2019年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|--|--|--|
| 1. 河川の氾濫による水害を避けるために、安全な微高地が選ばれている。 | 2. 標高が高い場所は風通しが良いため、夏の酷暑を避ける目的で選ばれている。 | 3. 周囲よりわずかに高いため、敵の襲来をいち早く察知できる軍事的な利点で選ばれている。 | 4. 微高地は傾斜があるため、水田稲作に必要な大量の水を管理しやすく農作業に適している。 |
|-------------------------------------|--|--|--|

問3 昭和50年代と平成25年の地形図の情報を比較した際、ある地域の「鬼の岩屋古墳」の東側において、かつては空白が目立っていた場所に建物を示す記号が非常に多く見られるようになりました。この変化から読み取れる内容として、最も適切なものはどれですか。(2021年 京都公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 建物密集地が増加したことで、住宅地や商業地として市街化が進んだ。 | 2. 鉄道沿線の利便性を高めるため、大規模な公共施設や高等学校が建設された。 | 3. 歴史的景観を維持するために、古墳周辺の建物の高さが制限された。 | 4. 農地の整備が進んだことで、大規模な機械化農業が行われるようになった。 |
|-------------------------------------|--|------------------------------------|---------------------------------------|

問4 日本列島の太平洋側において、低緯度の暖かい海域から北に向かって流れる海流の名称として適切なものを選んでください。(2025年 栃木公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|--------------|---------|----------|
| 1. 日本海流 (黒潮) | 2. 千島海流 (親潮) | 3. 対馬海流 | 4. リマン海流 |
|--------------|--------------|---------|----------|

問5 鳥取県の大山付近にあるスキー場の様子を記した地形図において、等高線が非常に密集しているコースAと、コースAに比べて等高線の間隔が広いコースBの二つが示されている。これら二つのコースの傾斜の比較について、地形図から読み取れる内容として正しいものはどれか。(2018年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--------------------------------|---|
| 1. コースAは急斜面であり、コースBはコースAに比べて緩やかな斜面である。 | 2. コースBは急斜面であり、コースAはコースBに比べて緩やかな斜面である。 | 3. コースAとコースBはどちらも平坦な土地に位置している。 | 4. 等高線の間隔の広さは、コースの標高の高さのみを表しており傾斜とは関係がない。 |
|--|--|--------------------------------|---|

問6 洪水や土砂災害などの自然災害が発生した際に、被害が及ぶと予想される区域や、避難場所・避難経路などの情報を住民に共有するために作成された地図の名称として、適切なものを選びなさい。(2018年 兵庫県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|--------|--------|---------|
| 1. ハザードマップ | 2. 地形図 | 3. 主題図 | 4. 統計地図 |
|------------|--------|--------|---------|

問7 日本の地形的特徴である「フォッサマグナ」に関する説明として、地質学的な背景を踏まえたものとして最も適切なものを選びなさい。(2018年 静岡公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 日本列島を東西に二分する巨大な溝状の地形で、その西の縁は糸魚川-静岡構造線と呼ばれている。 | 2. 関東地方から九州地方までを貫く日本最大の断層であり、日本アルプスなどの高山を形成する原因となった。 | 3. 東北地方の中央を南北に走る脊梁山脈であり、日本海側と太平洋側の気候を分ける境界となっている。 | 4. シベリア大陸から切り離された日本列島が、太平洋の海洋プレートに押されて隆起してできた広大な台地である。 |
|--|--|---|--|

問8 フォッサマグナの西端を縁取る、新潟県糸魚川市から静岡市付近にまで伸びる大規模な断層帯 (構造線) の名称を何といいますか。(2020年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------|----------|-------------|----------|
| 1. 糸魚川・静岡構造線 | 2. 中央構造線 | 3. 日本海東縁変動帯 | 4. 棚倉構造線 |
|--------------|----------|-------------|----------|

問9 日本の中央部の地形的特徴について述べた文として、正しいものはどれか。フォッサマグナの位置や境界に着目して選びなさい。(2016年 愛媛公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. フォッサマグナの西側の境界は、長野県付近を通過して日本海側と太平洋側を結んでいる。 | 2. フォッサマグナは東北地方を南北に貫く火山帯の通称であり、福島県がその中心である。 | 3. 日本列島を地質的に東西に分ける溝の西端は、京都府と兵庫県の県境付近に位置している。 | 4. フォッサマグナの東側の境界線が糸魚川・静岡構造線と呼ばれ、山梨県から愛知県へ続く。 |
|--|---|--|--|

問10 長野県松本市などに代表される、中央高地の気候の特徴を説明したものとして最も適切なものはどれか。(2026年 山形公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 周囲を高い山脈に囲まれているため、湿った空気が入り込みにくく、年間を通じて降水量が少ない。 | 2. 対馬海流の影響を強く受けるため、冬は北西の季節風によって大量の雪が降る。 | 3. 黒潮の影響により冬でも温暖であり、夏から秋にかけては台風や季節風の影響で降水量が非常に多い。 | 4. 一年を通じて気温の変化が小さく、常に湿潤な空気が流れ込むため、月ごとの降水量の差がほとんどない。 |
|--|---|---|---|

問11 ある地点の気候統計において、1月と12月の降水量が突出して多く、年間の総降水量が2700mmを超えている場合、その背景にある地理的な要因として最も適切な説明はどれですか。(2020年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|--|---|--------------------------------------|
| 1. 冬に北西から吹く湿った季節風が山脈に遮られ、雪や雨を降らせるため | 2. 夏に南東から吹く湿った季節風が直接山地にぶつかり、地形性降雨をもたらすため | 3. 梅雨や台風の影響を一年を通じて受けることで、夏期の降水量が最大になるため | 4. 周囲を高い山に囲まれており、年間を通じて降水量が少なく乾燥するため |
|-------------------------------------|--|---|--------------------------------------|

問12 年平均気温が約10.2度、さらに1月の平均気温がマイナス1.9度まで下がるような都市の気候の説明として、正しいものはどれですか。(2016年 茨城県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------------------------|--|---|--|
| 1. 北方の地域や内陸部に位置しており、冬の冷え込みが非常に厳しい。 | 2. 暖流の影響を強く受ける沿岸部に位置しており、冬でも気温が下がりにくい。 | 3. 標高が低い平野部に位置しており、ヒートアイランド現象の影響で冬の気温が高い。 | 4. 季節風の影響を全く受けないため、一年を通じて気温の変化が緩やかである。 |
|------------------------------------|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 地震などの災害時に電柱が倒壊し、避難路や緊急車両の通行路が塞がれるのを防ぐ効果	無電柱化は、空を広く見せるという景観上の利点だけでなく、災害に強い街づくりにおいて重要な役割を果たします。特に地震が発生した際、地上に立つ電柱が倒壊すると、住民の避難が困難になるだけでなく、消防車や救急車などの緊急車両が通行できなくなるリスクがあります。これを地下に埋設することで、道路の安全性を確保し、都市の防災機能を高めることができます。
問2	答え 1 河川の氾濫による水害を避けるために、安全な微高地が選ばれている。	日本の平野部にある集落の多くは、地形のわずかな高低差を利用して立地しています。断面図などで確認すると、周囲が1m程度の低地であっても、集落がある場所だけは2mを超えるようなわずかな高まりになっていることが多く、これは河川の氾濫から生活を守るための知恵です。このような地形的制約と防災上の観点から集落が形成されるのは、日本の伝統的な土地利用の大きな特徴です。
問3	答え 1 建物密集地が増加したことで、住宅地や商業地として市街化が進んだ。	地形図において建物を示す記号が増え、それらが密集している様子は、その地域が住宅地や商業地として開発されたことを示しています。昭和期に空白（空地や農地）だった場所が、平成期に建物で埋まったことは、人口増加や都市化を背景とした市街地の拡大を象徴する変化です。
問4	答え 1 日本海流（黒潮）	日本の南東から北東方向へ流れるこの暖流は、海水に含まれるプランクトンが少なく透明度が高いため、太陽光を吸収して黒っぽく見えることから「黒潮」とも呼ばれます。北から流れてくる寒流の千島海流（親潮）と東北地方の沖合でぶつかる場所は潮目（潮境）と呼ばれ、好漁場となります。
問5	答え 1 コースAは急斜面であり、コースBはコースAに比べて緩やかな斜面である。	地形図の法則として、等高線の間隔が狭いほど斜面が険しく、間隔が広いほど斜面がなだらかであることを利用して判断する。大山のような火山の斜面では、山頂に近いほど等高線の間隔が狭くなり急勾配になることが多く、スキーコースの設定など土地利用の判断材料となる。
問6	答え 1 ハザードマップ	自然災害による被害想定区域や避難施設を記した地図はハザードマップ（被害予測地図）と呼ばれます。これは特定の目的に応じて作成される「主題図」の一種であり、住民が事前に地域の危険性を把握し、迅速に避難できるようにすることを目的としています。等高線などを用いて土地の様子を網羅的に表した地形図とは、その目的が異なります。
問7	答え 1 日本列島を東西に二分する巨大な溝状の地形で、その西の縁は糸魚川―静岡構造線と呼ばれている。	フォッサマグナは単なる山脈や断層ではなく、日本列島の中央部に生じた巨大な「溝」のような地形です。その西側の縁（構造線）によって、古い岩石からなる西日本と、比較的新しい岩石が埋まっている東日本の境界が形成されています。一方、選択肢にある「関東から九州まで貫く断層」は中央構造線の説明であり、フォッサマグナとは区別する必要があります。
問8	答え 1 糸魚川・静岡構造線	フォッサマグナは「面」としての広がりを持つ地域を指すのに対し、その西側の境界を成す「線」としての断層帯は糸魚川・静岡構造線と呼ばれます。これに対し、中央構造線は関東から九州まで日本列島を縦断する別の巨大な断層であり、混同しないよう注意が必要です。
問9	答え 1 フォッサマグナの西側の境界は、長野県付近を通過して日本海側と太平洋側を結んでいる。	フォッサマグナは本州の中央部を南北に縦断するように存在しており、その西の縁（糸魚川・静岡構造線）は長野県などを通っています。これによって日本列島は地質学的に東側と西側に大きく区分されます。選択肢にある「東北地方」や「近畿地方（京都・兵庫）」にフォッサマグナの境界はありません。
問10	答え 1 周囲を高い山脈に囲まれているため、湿った空気が入り込みにくく、年間を通じて降水量が少ない。	中央高地は飛騨・木曾・赤石山脈などの標高の高い山々に囲まれているため、海からの湿った空気が遮断されます。これにより、日本国内でも特に年間降水量が少ない地域となっています。また、海から離れた内陸部に位置するため、比熱の小さい陸地の影響を強く受け、夏と冬、あるいは一日のうちの昼と夜の気温差が非常に大きくなる内陸性気候が形成されます。
問11	答え 1 冬に北西から吹く湿った季節風が山脈に遮られ、雪や雨を降らせるため	日本海側の気候では、冬の季節風が最大の要因となります。シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風が、日本海を渡る過程でたっぷりと水分を含み、それが日本列島の脊梁山脈にぶつかって上昇気流が発生し、雪雲が発達します。その結果、冬の降水量が非常に多くなり、夏よりも冬の降水量が上回る地点も珍しくありません。これに対し、太平洋側では季節風が山を越えて乾いた空気となるため、冬は晴天が続きます。
問12	答え 1 北方の地域や内陸部に位置しており、冬の冷え込みが非常に厳しい。	盛岡市などの東北地方の内陸部や北方の都市では、緯度の高さや内陸放射冷却の影響を受け、冬の気温が氷点下になるなど非常に厳しく冷え込みます。年平均気温が10度前後と低く、特に1月の平均気温が氷点下（マイナス1.9度）を示すのは、このような寒冷な地域に見られる典型的な特徴です。